

病院の概要

- 病床数 628 床
- 医師数（研修医を除く）277 名（うち指導医数 80 名）
- 研修医数 1 年目 28 名 2 年目 28 名
- 研修医の主な出身大学 札幌医科大学・福島県立医科大学・弘前大学・秋田大学・新潟大学・金沢大学・富山大学・鳥取大学・群馬大学・千葉大学・日本大学・埼玉医科大学・東京医科大学・東京女子医科大学・杏林大学・獨協医科大学・昭和大学・東海大学・自治医科大学・福岡大学・宮崎大学・他
- 診療科 内科 循環器内科 小児科 外科 脳神経外科 心臓血管外科 整形外科 泌尿器科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 皮膚科 形成外科 リハビリテーション科 麻酔科 放射線科 精神科 歯科口腔外科 病理診断科 救急科
- 1 日平均外来患者数 1328 名 ● 1 日平均入院患者数 513 名
- 主な認定施設 労災指定病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センター



研修プログラムの特色

「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標としています。これまでもスーパーローテーションに近い多科研修を行ってきましたが、研修が義務化された 2004 年度以降においても従来の経験を生かし、かつ厚生労働省の基準に従ったスーパーローテーション方式による臨床研修を行い、これによって幅広い医学知識と技能を有し、深い人間性にもとづいたすぐれた臨床能力を発揮できる医師を養成しています。

当センターでは、幅広い診療を通して、豊富な臨床経験を積むことができます。その結果、総合的な視野に立った医師を養成することが可能です。日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるとともに、医師としての人格を涵養することを目指してプログラムを設定しています。

2020 年度から厚生労働省の医師臨床研修制度の見直しに則ったプログラム改訂を予定しています。



プログラム例 一般プログラム（募集定員 24 人）内科コース

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目 ▶	内科 1		内科 2			内科 3		救 急		産婦人科		
2 年目 ▶	地域医療	外 科		麻酔科	小児科		内科 4		選 択			

※ 2020 年度より、プログラムを変更予定です。

研修医の処遇

- 給 与 ▶ 1 年次：約 38 万円 / 月 2 年次：約 40 万円 / 月（時間外手当含む）
賞与（1 年次：約 43 万円 / 年 2 年次：67 万円 / 年）
- 諸 手 当 ▶ 地域手当、医師手当、時間外手当、期末手当
- 保 険 ▶ 日本私立学校振興・共済事業団（健康保険・年金）、雇用保険、労災保険
- 勤 務 時 間 ▶ 8 時 30 分～17 時 15 分
- 当 直 ▶ あり（約 4 回 / 月）
- 休 暇 ▶ 有給休暇（1 年次：15 日、2 年次：20 日）
土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（5 月 14 日）、夏期休暇 等
- 宿 舎 ▶ あり

主な臨床研修協力病院・協力施設

- ・自治医科大学附属病院
- ・さいたま市民医療センター
- ・埼玉県立精神医療センター
- ・埼玉精神神経センター
- ・秩父市立病院
- ・南魚沼市民病院
- ・小鹿野中央病院
- ・JCHO さいたま北部医療センター
- ・さいたま赤十字病院

当院の魅力

全てを経験したからこそ理解できる 当センター-初期研修の質的な魅力

当センターでの初期研修の特徴に、従来までの総合医療と専門医療の一体化とともに、2016年4月より救命救急センターが開設され、一次医療から三次医療まで全てを網羅する救急医療が2つ目の柱に加わりました。

総合医療においては、病歴から身体診察までの情報で如何に診断に迫れるか、に重きを置いた研修が特徴であり、米国ワシントン州立大学内科名誉教授の Fujimoto 先生による指導も研修医全員が個別に受ける機会も用意されています。

専門医療は自治医科大学の附属病院であることのメリットを最大限に生かした最先端の医療を全ての診療科で経験することができます。

救急医療では救急科研修および救急科当直を経験することにより、一刻を争う診療での“思考過程”や“身のこなし”を経験することになります。

当センターの初期研修プログラムは医師としての最初の2年間に、今は役立つ実感が無くても、将来、必ず役に立つ研修内容を織り込んだものとなっています。かなり忙しい2年間となりますが、全てを経験したからこそ理解できる、質的な魅力を持った初期研修プログラムです。皆さんの研修のバックアップは卒後臨床研修室で担っていきますのでご安心下さい。来年の春に皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



研修責任者から

message

当センターは開院以来、総合医療を主眼としたスーパーローテート方式を全国でもいち早く取り入れて来ました。一般プログラムの中に、内科・外科・外科系専門診療科・救急の各コースを設け、研修医からの多様なニーズに対応しています。研修指導は、診療チームの中で、屋根瓦式に実施されます。

当センターの初期研修医は全国から集まっており、いわゆる学閥はありません。総合回診、M&Mカンファレンス、研修医ランチョンセミナーなどを通じて、大切な情報を各研修医間で共有できます。研修医も参加する研修委員会において、研修内容の改善を検討しています。

豊富な経験と業績を持つ教授・准教授スタッフなどの教職員が揃っており、皆さんの研修を支援します。



卒後臨床研修室長

菅原 斉

先輩研修医から

message

先生方が優しく教育体制が充実しており、研修中に習得すべき手技はもちろん、カンファランスから学会の発表まで幅広くプレゼンする機会もあり、そうして身につく力は今後必要となる大きな武器だと思います。

また、自治医大の性質上、当センターには様々な大学から人が集まります。そのため学閥を意識せず、特に他県から来る方には働きやすい環境だと思います。同期の仲が良いという点は、お互いを支えあい刺激しあい、より良い研修生活を送るために非常に大切なことです。科の垣根が低い、診療科を超えてのコンサルトがしやすい点は、スーパーローテートする研修医には大きなメリットとなります。

尚、大学病院でも市中病院でもある当センターでは、academicな症例からcommonな症状まで幅広くみることが出来ます。様々なプログラムが用意されていますので、ぜひ一度、見学にいらしてください。



研修医2年目

奥富 由貴

女性医師支援コーナー

次世代を担う医師のキャリア形成が出産・育児等により中断されることがないように就業継続のための短時間勤務制度があります。全職員対象の育児短時間勤務（所定勤務時間内において30分単位で2時間まで勤務時間を短縮）と、医師対象の短時間勤務（週20時間勤務。午前・午後をそれぞれ4時間とし、週20時間になるよう組合せ）があります。2019年1月1日現在も9名の女性医師が短時間勤務制度を利用しています。また、職員の子の育児を支援するため、院内保育所、病児保育所を設けています。更に、育児中は（申請により）当直を免除するなど配慮しています。

連絡先

自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室

〒330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847

TEL ▶ 048-648-5225 (直通) FAX ▶ 048-648-5166

E-mail ▶ rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

URL ▶ <http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html>

アクセス ▶ JR大宮駅東口からバスで約10分

病院見学、その他イベント・説明会等の情報

※レジナビフェアに埼玉県ブースで出展しています（3月、6月）。

※研修内容説明会を開催しています（7・8月）。

※病院見学は随時受け付けています。当センターホームページ（卒後臨床研修室のページ）をご覧ください。